

清流の息吹を訪ねて

カワムツ

鎌倉の川に新たな魚が参入

このコーナーは、市内山ノ内
で釣りに関するアドバイス
などを行う(株)フィッシュナビ
の代表で、「魚の専門家」
の八鳥洋二さんから寄稿
いただいています。

大船という大都会のど真ん中で、川魚を観察できる癒しのスポットがあります。それは砂押川のプロムナード区間(大船郵便局付近)。その立地上、多くの方が利用され、お散歩コースとしても人気があります。

砂押川は、今泉にある鎌倉湖(散在ガ池)を水源とし、最終的にはJR大船駅の真下を潜り、柏尾川へ注ぎます(全長4.5kmで、河川規模は滑川に次いで市内で2番目に大きい)。



カワムツのつがい(上:メス、下:オス
／繁殖期は春～夏)。市内では、砂押川
と小袋谷川に多く生息しています

ここには、梅田川編で登場したオイカワが棲み、アユなども川を上ってきますが、今回は近年になって一際目立つようになった第3の魚「カワムツ」についてお話しします。姿かたちは一見オイカワに似ていますが、体には黒色の太い縦縞が入り、ヒレが黄色いのが特徴です。カワムツはオイカワ同様、日本古来の魚ですが、本来は西日本に生息する魚です。アユ、ウナギ、ハゼは、海と川を往来して生きているので、海を介して生息域を変えることができます。しかし、このカワムツは一生を淡水域で生きる魚ですので、関東にまで生息域を広げることがまず不可能です。

今日、このように鎌倉の川にカワムツが泳いでいるということは、何らかの要因で人の手によって持込まれ、それが環境に適応し繁殖してしまっただけが考えられます。